

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4373000423		
法人名	医療法人 新清会		
事業所名	グループホーム むつみ荘		
所在地	熊本県葦北郡芦北町大字佐敷371-6		
自己評価作成日	令和3年2月18日	評価結果市町村受理日	令和3年4月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和3年3月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

昨年2月に発生した新型コロナウイルス感染症が世界中で猛威を振るう中7月4日の豪雨で未だかつて経験した事のない災害に見舞われました。普通に生活が出来る事の有難味、幸福であるという事をつくづく考えさせられました。全国からの温かい支援、多くの事業所、各団体からの温かい協力を溢れんばかりに頂きました。言葉では言い尽くせない、人の優しさ、思いやり、感謝を胸に秘め利用者様、地域の方々、スタッフが共に寄り添い、共生し、笑顔の絶えないグループホームである様に努力して参ります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新型コロナ予防対策の中で、昨年の豪雨では1階が浸水するという甚大な被害を受けているが、ホームの特徴である1階と2階を住み分けし、2階へ移動した生活を毎日欠かさずことなく過してきた経験と、日頃の訓練、職員の落ち着いた行動が全員の命を救えたとして、被災を乗り切ったその重さを全職員が心一つに、当たり前の日々これまで以上に熱意も持ってケアに当たっている。長い避難生活にもかかわらず、今ではホームの毎日が、楽しく、お互い労ながら仲良く過される様子を職員の関わりの深さが表れている。オープン当初から関わってきた管理者や職員のモチベーションの高さが、ケアの厳しさを表に出さず、笑顔での寄り添いや食事作りも手を抜かない努力に敬意を表したい。また、これまで以上に入居者と家族に視点を当てて検討されたことも、入居者と家族との再構築として生かされており、これまで通りの地域の中での生活がいち早く戻る事を願うばかりです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、地域生活の継続支援と事業所と地域の関係性を重視した理念を大切にしている。又、むつみ荘独自の理念を掲げ地域との関係を大切にしている。	本来の理念をもとに、昨年の豪雨災害を経験し、生きている事への感謝を理念に込めている。むつみ荘では、1階が居室、2階が生活の場として毎日2階へ移動した生活であったことや、夜勤者の落ち着いた避難対応や、これまでの訓練が功を奏している。管理者は日頃の行動が人災に繋がらなかったとし、今あることに全員が感謝し、その思いが玄関先に掲げられ、全職員が、今ある命に向き合い、厳しい現状にも明るくケアに当たる姿勢に敬意を表したい。	《明日が来る日が当たり前ではない。今日という日が無事過ごせることがありがたい。今ある尊き命に感謝》 難局を乗り越えた職員の総意である。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の挨拶はもちろん、地域の方々への声掛け等積極的に行っている。地区の行事などへの参加も行っている。今年度は新型コロナウイルス感染症から始まり7月豪雨災害による被災にて思うような交流は出来ていない。	コロナ禍や豪雨災害により地域の行事は行われていないが、豪雨時には公民館館長等が片付けに駆けつけてくださる等これまでの築き上げた地域との関係性は息づき、ホームも地産地消《食材》により地域へ貢献している。	コロナに収束が見られれば、今後も地域住民と関係性を取り戻し交流を図る意向であり、今後が大いに期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員さんからの相談にも応じている。介護に関する知識など一般からの事業所内の研修への参加もどうかと勧めてはいる。今年度は、新型コロナウイルス感染症、7月豪雨災害の被災により何も出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様方の普段のありのままの様子をご覧頂きながらの会議状況となっており質問、意見、助言など頂きサービスの向上に繋がっている。今年度は新型コロナ、7月豪雨災害により1回しか出来ていない。	今年度は、新型コロナや豪雨災害という中で運営推進会議は書類による報告として行政や民生委員・消防署長等に持ち届けるとともに家族には写真により入居者の笑顔を発信している。	豪雨災害という難局にあっても、笑顔のある日常を発信したいとする職員の思いがホーム便り等に表出している。これまでの運営推進会議が開催できるようになるまでの期間、メンバーからの意見や提案等を収集する手段を検討いただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き事業所の実情やケアサービスを伝えている。相談したり、質問を受けたり協力的体制である。	運営推進会議の資料を持ち届け、様々な事案を相談し、今回の評価に関わる資料も行政から提供される等協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。施錠は防犯の為にやっている。	身体拘束廃止に向け、院内研修により意識を強化させている。センサーも使用することなく、帰宅願望が顕著な方には、外に一緒に出かけたり、所在確認を徹底している。また、道路に面するホーム、生活の場が2階という環境に施錠をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会に参加し、虐待に関する理解に努めている。職員による虐待は無い。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等に進んで参加し、利用者様が住み慣れた地域で安心、安全に暮らせる様に支援していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明は十分行っている。家族の立場に立ち十分配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱は設置しているが、未だに殆ど活用されていない。気兼ねなく意見、要望など言って頂こう、家庭的な雰囲気に対応している。	家族の訪問に制限はあるが、利用料金持参時に気軽に意見や要望を出していただくよう声を掛け聞き取りしており、家族からは感謝やこのままで十分との声が挙がっている。家族とのネットを活用した面会が進行しており、今後、更に家族の意見や要望を引き出したり、入居者との接点として期待される。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者、訪問看護、スタッフにて毎月会議を行い意見や提案について配慮頂いている。今年度は新型コロナ、更に7月豪雨災害にて会議が出来ず。	これまで通りの会議は開催できる状況になく、ケアカンファレンスとして個別コートを作成し、職員個々が気づきのあるケアに努めている。管理者は日々ケアに入り、職員とのコミュニケーションを図るとともに職員同士の風通りの良い環境に、意見や気づき等をケアサービスに反映させている。また、管理者を通じ職員の意見や入居者の状況などを法人と相談しており、人的環境を整えている。	これまで開催されていた運営会議が再開できるような状況になれば、更に職員の意見や提案の話し合いの場として生かされるものと期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境は申し分ない。スタッフは、お互いに協力し合い楽しく働く事が出来ている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外の勉強会、研修等に参加している。資料等は職員全員閲覧できる。今年度は新型コロナ、更に7月豪雨災害にて出来ず。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームブロック会にて勉強会、研修に参加し、事例検討を通して同業者の意見や取り組みをケアに活かしている。交換研修も行っている。7月豪雨災害にて被災し、それ以降の研修には参加していない。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まず、本人に伺い本人の気持ちに共感しながら対応している。理解力困難な方にもまず伺い、その後は察知しながら対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	常に何でも相談して頂ける様な雰囲気づくりに努め、共に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず、相談に対して出来る限りの対応には努めている。本人様、ご家族の要望も伺いながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側、される側と言う意識を持たずお互い協働しながら和やかな生活が出来る様に働きかけている。家族的な雰囲気を作り出し支援に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人、家族の思いを共感し共に支え合い支援出来る様に努めている。支払い時は必ず面会してもらい会話をさせて頂く様に配慮している。今年度はコロナ感染症の為面会はお断りしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会はいつでも自由に出来る。ふるさと訪問は出来る限りやってくる。今年度は新型コロナウイルス感染症、更に7月豪雨災害にて困難であった。	コロナ禍のなか、豪雨災害という難局を全員で乗り切ったホームでは、家族との絆を断たないようにと工夫し、入院されている家族の見舞いを支援したり、家族との電話や家族の協力により自宅への帰宅等が行われ、ネットを通じた訪問等に取り組み始めている。以前は月に2回程の帰省も叶えていたが、現状としては難しい状況である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は皆さん居間で過ごされ孤立することは無い。出来る事をさせて頂く時は皆さんに声かけを行い、皆さんで頂くようにしている。役割分担が出来ている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人様へ面会したり、家族へも情報を伝えたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に声かけ、話しかけなど行い対応している。意思疎通困難な方へも必ず声かけ行いまた、日々の行動や表情からくみ取り、関わる中で把握している。	職員は入居者に優しく関わり、常に寄り添いながら思いを引き出している。個別ノートを活用し、個々の状況や言葉等から把握した事案を共有したり、職員と対等に会話をされる入居者や、ジェスチャーや筆談等非言語的な会話により希望等を聞き取りし、101歳という入居者の要望である「ゆっくりしたい」に応え、自由な生活を支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、関係者などから色々な情報を得て把握し常に家族的な支援を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の生活リズムを理解、把握し、それぞれに応じた対応の仕方で支援出来ている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の要望や思いを聞き職員全員で毎月ケアカンファレンスを行い無理のない介護計画を作成している。	毎月のケアカンファレンスの中で職員の気づきや意見をもとに話し合い、6ヶ月毎にプランを見直している。利用料持参時や遠方の家族には電話にて聞き取りし、家族等の意向の変化や心身の変化、職員の観察等個別ノートをプラン見直しに反映させ、実現可能なプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや利用者の状態変化は個々の記録に掲載し、申し送りノートにも記載情報共有を徹底し計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議では、民生委員、消防署、福祉課よりの参加が有り意見、助言等頂き安心、安全な生活に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に入所の段階で篠原医院がかかりつけ医となる事を家族へも了解済み。他、専門医への受診は家族の希望としている。	入居時に母体が隣接の医院であることを説明しており、車椅子や歩いて受診に出かけている。週1回糖尿病予防として受診に出かける方や、毎週から月2回に変更した訪問介護を利用し何かあればラインでの報告や毎日のバイタルチェックにより異常の早期発見に努めている。母体の存在が家族の安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調や表情の変化を見逃さないよう、早期発見に取り組んでいる。変化に気付いたことがあれば、直ちに訪看、看護職に報告し、適切な医療に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、医療機関に情報を提供し、職員が頻繁に見舞い、家族とも回復状況等、情報交換しながら、早期退院支援に結び付けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う意思確認書を作成し、事業所が対応し得る最大のケアについて、説明を行っている。看取りについては、希望に応じて対応する。これまでに1件の看取り希望も有り行っている。	重度化指針のもと家族に説明し、意思確認書を交わしている。家族の希望及び協力を得て看取りケアを実践したケースもあるが、隣接に母体医院があることにより最期は入院を希望される家族が多く、ホームで出来る最大のケアに努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会には全ての職員が参加し体験、習得するようにしている。夜勤時は緊急対応マニュアルを作成し周知徹底を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署、地域の方々の協力を経て年に2回の避難訓練を行っている。今回、7月豪雨による被災を受けたが避難訓練の成果もあり、又夜勤者の早目の対応により無事2階へ避難することが出来、人的被害は無かった。	ホーム職員は防火管理者として有資格者であり、これまでの長年の訓練のたまものがとして7月の豪雨災害時の避難に繋がっている。ホームの特徴である1階が居室、2階が生活空間として毎朝全員2階へ移動して生活されてきたこと、及び夜勤者の落ち着いた避難対応が9名の入居者全員が無事に避難できており、人災に繋がらなかったことは日頃の行動の賜物である。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの確保に努めている。又、本人を傷つけないように、目立たずさりげない言葉かけや対応に配慮している。	入居者を人として敬意を払い、優しく接するホームで有り、ベッド上のおむつ交換に他の入居者の目に触れないよう衝立を利用している。また、個人情報保護方針として明確に示し、守秘義務の遵守を徹底し、呼称についても、入居者一人ひとりに応じて対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声かけ行い、意思表示困難な方には表情、言動から汲み取っている。また、利用者より直接の思いや希望が聞かれる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは持っているが、時間を区切った過ごし方はしていない。一人ひとりの体調に配慮し柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人にも伺いながら、スタッフにも相談しながら、その人らしさを引き出せるよう身だしなみ、おしゃれの支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には配膳をお願いしたり、後片付けも手伝ってもらっている。介助しながら、一緒に食事をするようにしている。	入居者に何を食べたいですかと聞き取りし、その日の担当者が旬の食材を活用しながら手作りで提供している。入居者も芋の皮むきやタマネギの皮むき、もやしの根切り等食へ関わるとともに、台所での音や匂い等が食の意欲を引き出している。誕生会や敬老会等の行事食、及び日々の食事は入居者と職員との食を楽しむひとときである。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調と、一日の摂取量、水分量もチェック把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方は声かけ見守りをし、利用者によってはガーゼを使用し肺炎の防止に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作り、一人ひとりのパターンを確認し、トイレ誘導はまめに行っている。少しでも家族の負担が少なくなればと配慮している。	排泄チェック表により個々のパターンを把握し、入居者個々に合わせてトイレでの排泄を支援している。殆どの入居者が布下着であり、夜間もトイレへ誘導したり、中にはポータブルトイレを使用される事もある。夜間頻回な方であっても、おむつは使用することなくトイレへ誘導しており、家族の経済的な面も視野にしたケアに努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給には十分気を付け、なるべく繊維質の多い食材を取り入れ、身体を動かすことを心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの気持ち、習慣に合わせた入浴支援ではないが、声かけを行い個々に合わせた入浴支援を行っている。	月曜日から土曜日まで毎日入浴の声を掛け支援している。入浴を拒否される場合には強制すること無く、足浴に変更する等個別に支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努力している。その時の状況に応じて休息など促している。2、3名の方は認知症の進行により夜間帯休まれない時が多くなった。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、一人ひとりの薬をケースに整理し把握に努めている。また、服薬時はきちんと服薬出来ているか確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえよう、役割分担を行っている。その後は必ず感謝の言葉を伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	重度化に伴い全員とはいかないが、心身の活性につながるよう本人の希望に応じて散歩に出かけたりしている。また、家族の協力にて外出などもして頂いている。今年度はコロナ感染拡大防止の為面会、外出はお断りしている。	コロナ禍や豪雨災害等により、外出はままならない状況にあるが、ホーム周りの散歩に出かけている。暖かくなれば、外出を支援する意向である。	まだまだ豪雨災害の爪痕が残る地域で有り、これまで支援されていた外出は無理かもしれませんが、出来る限り外気浴等を支援いただきたい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が困難な方が主であり、家族の了解を得て職員が管理をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	主に電話の取次ぎを行って、電話での対応が出来る方は大いに支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間と台所はつながっており、生活感あふれ、五感を刺激している。居間には畳にソファを置き、心地良く過ごせるようにしている。また、花や飾りなどで季節感を出している。	1階は豪雨により浸水し、改修された真新しい室内に職員が生けた花が季節感を醸し出している。毎日の生活の場を2階として、毎朝全員が2階へ移動し、居間では入居者同士の語らいの場やソファでのくつろぎの場とした居間、調理の様子を見ながらの生活空間である。居間の仏壇に毎朝手を合わせる等心の拠り所とされている入居者もおられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールには椅子を設置し、思い思い安全に過ごせるようにしている。その時その時に応じて落ち着ける場所を確認しながら対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けのタンスがあり、居室が狭いため、個人の持ち込みはあまりないが、好きなようにして頂いている。7月豪雨災害により1階は浸水し、何もかも新しい物になっている。	改修された居室はホームが側がベッド・タンス等を新たに備え付け、家族から寄せられた衣類や預かり金の中から職員が衣類を用意している。また、季節毎の衣替えは家族に依頼し、遠方の家族にはホーム側で対応している。ホームの特徴として1階居室は日中使用することは殆ど無く、布団・毛布をきちんとたたむ等朝からのベッドメイキングに職員の心意気を感じるホームである。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況に合わせ昇降機の設置や、一人ひとりの理解力を見極め、必要な目印を付けたり、物の配置に配慮している。		